

人工知能基本計画（概要）

～「信頼できるA I」による「日本再起」～

参考資料2
AI for Science推進委員会
(第1回) 令和8年2月9日

基本構想

- ◎「信頼できるA I」を追求し、「世界で最もA Iを開発・活用しやすい国」へ。
- ◎「危機管理投資」「成長投資」の中核として、今こそ反転攻勢。

3つの原則

イノベーション促進とリスク対応の両立、アジャイル（柔軟かつ迅速）な対応、内外一体での政策推進

4つの基本的な方針に基づく施策

データの集積・利活用・共有を促進

1. A I利活用の加速的推進 「A Iを使う」

世界最先端のA I技術を、適切なリスク対応を行いながら積極的に利活用。

- 政府・自治体でのA Iの徹底した利活用
- 社会課題解決に向けたA I利活用の推進
- A I利活用促進による新しい事業や産業の創出
- 更なるA I活用に向けた仕組みづくり

利活用と技術革新の好循環

2. A I開発力の戦略的強化 「A Iを創る」

A Iエコシステムに関する各主体での開発及び組み合せにより、日本の強みとして「信頼できるA I」を開発。

- 日本国内のA I開発力の強化
- 日本の勝ち筋となるA Iモデル等の開発推進
- 信頼できるA I基盤モデル等の開発
- A I研究開発・利用基盤の増強・確保

社会全体で「信頼できるA I」を使う

3. A Iガバナンスの主導 「A Iの信頼性を高める」

A Iの適正性を確保するガバナンスを構築。日本国内だけでなく、国際的なガバナンス構築を主導。

- A I法に基づく適正性確保に向けた指針、調査・助言、評価基盤となるA Iセーフティ・インスティテュートの機能強化
- ASEAN等グローバルサウス諸国を含めた国際協調

4. A I社会に向けた継続的変革 「A Iと協働する」

産業や雇用、制度や社会の仕組みを変革とともに、A I社会を生き抜く「人間力」を向上。

- A Iを基軸とした産業構造の構築
- A I人材の育成・確保
- A I社会における制度・枠組みの検討・実証
- A I時代における人間力の向上

- ◎ 制度改革等のための省庁間連携、適切なベンチマークの設定とモニタリング、当面毎年変更

(参考) AI施策の方向性：AI利活用の加速的推進（AIを使う）

- ・ 日本社会全体で、**世界最先端のAIに関する技術を能動的に利活用する**ことで、新たなイノベーションを創出。
- ・ **データの集積・利活用・共有を促進し、AIの利活用、性能向上を実現。**

具体的取組

- » まず使ってみるという意識を広く社会に醸成。利活用の阻害要因であるAIによる効果やリスクへの理解不足等の解消に努める。
- » 政府による適正な調達・利活用を先導し、AIの信頼性・透明性を確保。
地方自治体の持続的な行政サービスに向けた、AI導入環境の整備。
- » 人手不足への対応や防災・インフラの安全性確保、安全保障に関わる技術の高度化等、社会課題・国家的課題の解決に直結する分野におけるAIの利活用を支援。デジタル化・AI導入補助金を始めとする中小企業におけるAI導入促進の円滑化。
- » フィジカルAIの導入促進、科学研究におけるAI利活用、スタートアップ支援による新事業・新産業の創出。
- » 地方創生、経済再生及び国民生活の質の向上に資するAI利活用を促すため、AI利活用を前提に既存の規制や制度の見直しを先導的に推進。
- » AIの徹底した利活用や性能向上のため、データの集積・利活用、特に組織を越えたデータの共有及び官民連携によるデータ利活用を促進。
データの安全性確保を図ることを含めて、戦略的に推進。

(参考) AI施策の方向性：AI開発力の戦略的強化（AIを創る）

- AIエコシステムの各主体（アプリ・モデル・計算基盤等）での開発と組合せ促進で、日本の強みとして「信頼できるAI」を開発、海外にも積極的に展開。
- AIを社会全体で使い、そこで生じた課題を解決するAIを創ることで、広範な技術革新につなげる好循環を実現。

具体的取組

- » 我が国が独自にAIを研究開発、自律的運用できる能力を強化し、日本の自律性・不可欠性を確保。国内外トップ人材の受け入れ、質の高いデータを活かしたAI開発力の向上。
- » エネルギー効率を重視したAIエコシステムの実現に向けた基盤モデル開発を推進。
- » AIモデルとアプリを組み合わせた多様なサービス創出、フィジカルAIの開発導入、AI for Science等の推進を日本勝ち筋へ。
- » 国家主権と安全保障の観点や日本の文化・習慣等を踏まえた信頼できるAIの実現に向けたデータの整備。評価基盤やテストベッドも整備。
- » 十分な計算資源と基盤となる半導体開発・供給、データセンター及びクラウド環境整備、それらを支える通信ネットワークの構築、安定的な電力供給体制の確保等、戦略的なAIインフラ整備を加速。
- » 政府と民間企業が連携し、研究開発、AIインフラ整備等に戦略的に投資し、AI投資が日本経済を牽引する成長エンジンとなるよう、投資を加速。

(参考) AI施策の方向性：AIガバナンスの主導（AIの信頼性を高める）

- ・ 人とAIが協働する社会でAIの利活用と技術革新の好循環を実現する環境を構築するため、**AIの適正性を確保するガバナンスを構築**。
- ・ 国境を越えるAIでは、国内だけでなく**国際的なガバナンスが不可欠**であり、我が国はその構築を主導。

具体的取組

- » AIイノベーションの好循環を実現し、信頼できるAIエコシステムを構築するため、技術開発・実証・評価・運用において、適正性の確保につながるPDCAサイクルを構築。
- » 国民や事業者等の能動的な取組を促すため、AI法第13条の指針等で考え方を示し、AIセーフティ・インスティテュート(AISI)の抜本的強化によるAIモデルの適切な技術的評価、AI法第16条の調査研究を軸にリスクの実態把握、必要な措置を実施。
- » AIの安全性確保やAIを利用した攻撃への対応がサイバーセキュリティ上の課題であることを踏まえ、体制整備を含めた適切な措置を講じる。
- » AIガバナンスに関する国際的枠組み「広島AIプロセス」を主導してきた日本として、引き続き国際的な議論を主導しながら、AIガバナンスの構築において国際協調を図る。
- » 多様な開発主体・用途・設計思想等に基づくAIモデル間の相互運用性の確保を重視し、日本が多様なAIイノベーションの結節点へ。グローバルサウス諸国と共に創・協力モデルを構築。

(参考) AI施策の方向性：AI社会に向けた継続的変革（AIと協働する）

- ・ 人とAIが協働する社会を実現するため、**産業や雇用の在り方、制度や社会の仕組みを先導的かつ継続的に変革。**
- ・ **AIを使い、AIを創るAI人材の育成・確保**に加え、人とAIの役割分担を模索しながら、**AI社会を生き抜く「人間力」を向上できる環境を構築。**

具体的取組

- » AIを基軸とした産業構造の構築、地域活性化の促進を図り、包摂的成長に貢献。
- » イノベーション促進とリスク対応の双方の観点からのAI社会における規制や制度のあり方を検討・実証。
- » 適切な知的財産の保護と利活用につながる透明性を確保を図るとともに、コンテンツホルダーへの対価還元等の推進に向けた取組を進める。
- » 雇用への影響について、産業構造や職種の変化も含めて丁寧に分析。新たな働き方に適応できるよう、教育、リ・スキリング支援等の対策を講ずるプロセスの継続実施。
- » AI時代の産業構造を踏まえた人材ニーズを調査・分析。AI社会の実現のために必要不可欠な、AIの利活用・開発を担うAI人材について質・量ともに育成・確保。
- » AI社会において人が人としての価値を發揮するため、創造力、思考力、判断力、適応力、コミュニケーション力などを含む「人間力」を向上。
AI時代にふさわしい働き方の方向性を検討。